

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	堀 篤実	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

人間関係を円滑に行うために必要とされるコミュニケーションスキル向上とそのスキルを生かした保育カウンセリングの実施に向けて考えていきます。演習によりコミュニケーションスキルの取得を目指し、今後の保育職におけるカウンセリングマインドを生かした心理的援助についてまとめます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を行います。授業内容に応じて、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れます。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ピアヘルピングの学び方	カウンセリングの基礎を活かしたピアヘルピングについての概要を理解する。	<input type="checkbox"/>
第2回	構成的グループエンカウンター概論	エンカウンター概論のねらいや実施の留意点を理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	構成的グループエンカウンター演習	エンカウンターエクササイズを実際に行いながらエンカウンターを体験する。	<input type="checkbox"/>
第4回	カウンセリングの定義	カウンセリングの定義やについて学習する。	<input type="checkbox"/>
第5回	カウンセリングの略史と必要性	カウンセリングのこれまでの流れ、現代社会における必要性について学習する。	<input type="checkbox"/>
第6回	カウンセリングの種類	目的別や方法別、対象別などカウンセリングの広がりを様々な観点から学習する。	<input type="checkbox"/>
第7回	ピアヘルピングの関係領域	ピアヘルピングが関連している領域について理解する。	<input type="checkbox"/>
第8回	ピアヘルピングのプロセス	ピアヘルピングのプロセスとして3段階を学習する。	<input type="checkbox"/>
第9回	ピアヘルピングのパーソナリティ	ピアヘルパーとして必要とされるパーソナリティについて考察する。	<input type="checkbox"/>
第10回	カウンセリングの動向	最近のカウンセリングの動向について学習する。	<input type="checkbox"/>
第11回	ピアヘルピングの言語的技法(1) 受容・繰り返し・明確化	ピアヘルピングの言語的技法のうちの「受容」「繰り返し」「明確化」について理解する。	<input type="checkbox"/>
第12回	ピアヘルピングの言語的技法(2) 支持・質問	ピアヘルピングの言語的技法のうちの「支持」「質問」について理解する。	<input type="checkbox"/>
第13回	ピアヘルピングの非言語的技法	ピアヘルピングの非言語的技法として言葉以外のコミュニケーションについて学習する。	<input type="checkbox"/>
第14回	対話上の諸問題への対処法	対話を進めていく途中で起こりがちな場面や状況を説明し、それへの対処法を考察する。	<input type="checkbox"/>
第15回	問題解決への対応	問題を解決するための具体的な対応策について学習する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

各自が担当となった部分について授業前にまとめ、レジュメを作成してくる。キーワード、わからない単語について授業で説明できるようにする(2時間程度)。授業内でその日の内容に関するテーマが提示されるので、次回までにまとめる(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題にはコメントを書き入れ、次の授業でフィードバックをする。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
	◆ 2018子ども発達DP1	ピアヘルピングの基礎を身につけ実践できるか。
	◇ 2018子ども発達DP2	グループワークを通して、自己理解、自己受容ができ、他者理解、他者受容ができるか。
	◇ 2018子ども発達DP3	カウンセリングの知識を実践に生かすことができるか。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			60%	40%
授業内試験等 (具体的内容) (Specific contents) 毎授業後、振り返りの紙を提出する。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	日本教育カウンセラー協会編、ピアヘルパーハンドブック、図書文化	9784810013436
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		